

2020年度 第2回マージン検討会 議事録

日時：2020年12月11日16:00～17:00

場所：Webex

出席者

置田 征司 北海道電力ネットワーク（株）工務部広域システムグループ担当課長
上石 晃 東北電力ネットワーク（株）電力システム部給電グループ課長
菊田 政雄 東京電力パワーグリッド（株）系統運用部系統運用計画グループマネージャー
園田 光寛 中部電力パワーグリッド（株）系統運用部給電計画グループ課長
山田 義徳 北陸電力送配電（株）電力流通部系統運用・保護チーム統括課長
黒井 浩二 関西電力送配電（株）系統運用部給電計画グループチーフマネージャー
神田 光章 中国電力ネットワーク（株）系統技術グループマネージャー
鍋島 晃 四国電力送配電（株）系統運用部給電グループリーダー
中澤 雅明 九州電力送配電（株）系統技術本部電力品質グループ長

事務局

石井 幹也（電力広域的運営推進機関 運用部長）
田治見 淳（電力広域的運営推進機関 運用部担当部長）
田中 孝明（電力広域的運営推進機関 運用部マネージャー）
多田 光伸（電力広域的運営推進機関 運用部マネージャー）
山内 賢一（電力広域的運営推進機関 運用部）
中澤 佳経（電力広域的運営推進機関 運用部）

配布資料

資料1：長期・年間マージン算出のスケジュール
資料2：長期・年間マージン算出の考え方について

議題 1：2020 年度 長期・年間マージン算出のスケジュール

事務局より資料 1 について説明した。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ：電源 I 〳 のエリア外調達分については、昨年度と同様にマージン設定することになる。設定にあたり、各一送の契約担当部署とも連携させていただきたく、対応をよろしく願います。

議題 2：長期・年間マージン算出の考え方について

事務局より資料 2 を説明の後、議論を行った。

〔主な議論〕 ○検討会 ●事務局

- ：シート 2 の設定方針（案）では、実需給断面で設定するマージンについて、既存マージンと電源 I 〳 広域調達分のマージンを除いて原則ゼロとしているとある一方で、シート 26 以降の実需給断面におけるマージンの確保理由のところでは、三次調整力②の約定量分のマージンを加えるといった記載があり、平仄が合っていないのではないかと確認したい。
- ：ご認識のとおり、三次調整力②のマージンも実需給断面において設定するマージンである。三次調整力②については 2021 年度から約定量分のマージン確保が開始される予定となっており、スポット取引後に翌日分の約定処理が行われ、その約定結果によって連系線の利用枠をマージンとして確保するスキームとなっている。シート 2 の記載は「現状」としており、現状では三次調整力②のマージンを設定していないため、ここでは既存マージンと電源 I 〳 広域調達分のマージンを除いて原則ゼロという記載としている。
- ：シート 13 の年間マージンの具体的な設定方法について、昨年度からの変更点として、参考値（実需給断面においてエリアの予備力不足によりマージンが必要となった場合の最大値）を第一・第二年度ともに平日の各月の値を算出するということが、昨年度からどのような状況変化があったのか確認したい。
- ：2020 年度供給計画の取りまとめから第一年度に加え第二年度についても各月評価が始まっており、本来であれば昨年度も第二年度の値を提出いただくべきであったが、昨年度は提出していただいた第一年度の値の算出条件を参照し、1 月に公表している需要想定から事務局にて算出を行った。今年度についてはお手数をお掛けするが、第一・第二年度とも提出をお願いしたい。
なお、供給計画とりまとめにおける供給信頼度評価について、EUE を用いて評価することを検討しているところであるが、2021 年度の供給計画の取りまとめにおいて、これまで通り H3 の 8% という必要予備率の評価を行う可能性もあるため、マージンについては第二年度も算出していただきたいと考えている。
- ：EUE 評価になった場合には、マージン算出は不要になるのか。
- ：適正予備率 8% は各エリアが連系線で他エリアと連系していることによる予備力低減効果 3% を考慮したうえでの数値となる。EUE 評価では、FC の EPPS 等のセキュリティマージンは考慮するものの、連系線を介した供給力の移動も考慮し供給信頼度を評価しているため、参考値の算出は不要となる。

以上